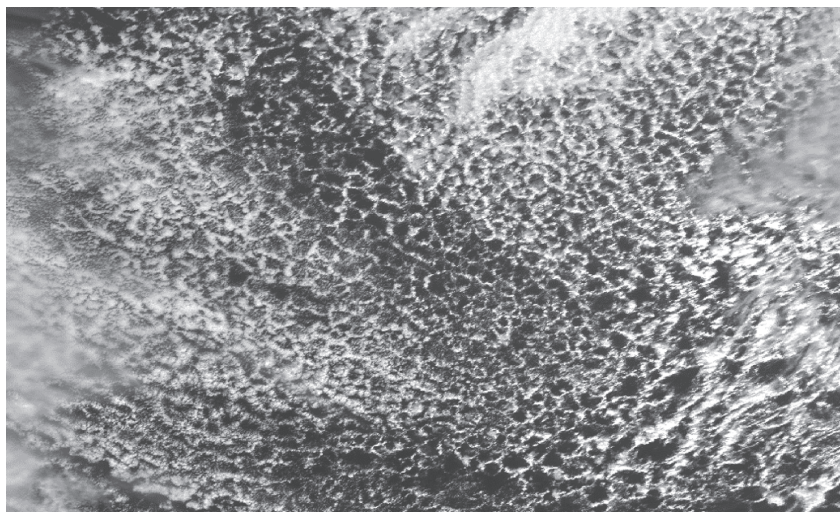




今月のひまわり画像—2022年11月

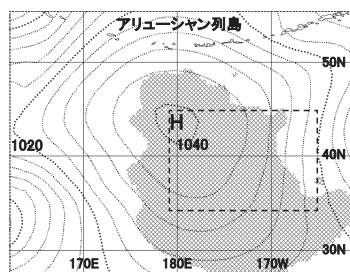
アリューシャンの南海上に広がるオープンセル



第1図 2022年11月23日09時（日本時間）のアリューシャンの南海上付近における可視画像。

第1図は2022年11月23日09時（日本時間）のアリューシャンの南海上付近における可視画像である。同海域には蜂の巣状をしたオープンセルが広がっており、一部は六角形に近いパターンをなしている。各セル（半径数十km）を取り囲む雲域の雲頂高度は比較的低く、対流は浅い層に限定されている。これらのオープンセルが広範囲に生じた要因としては、19～20日に上層寒冷渦に対応した比較的大規模の低気圧が同海域を通過した後、大陸方面から南下した下層寒気が、平年よりかなり高い海面水温の状況が継続していた同海域付近において次第に海面から加熱されたことなどが挙げられる。

第2図は同時刻の全球モデルによる地上天気図で、925hPa面の鉛直シアの小さい領域を重ね合わせている。一般に、対流性の雲域から形成されるオープンセルは下層の風が弱く、鉛直シアが小さい場合に維持されるが、本事例でもオープンセルが発生し維持されている領域はこれらの条件を満たす領域にほぼ対応していた。また、同図に示した高気圧は勢力がかなり強く、22日21時～23日21時のアジア太平洋地上天気図では中心気圧が1040hPaにまで上昇していた。11月に



第2図 気象庁全球モデルによる23日09時のアリューシャンの南海上付近における地上天気図（等圧線（点線）は4hPa毎、H記号は高気圧、ハッチ域は925hPa面の鉛直シアが1kt/1000ft（1kt≒0.51m/s、1ft≒0.30m）以下の領域、矩形（破線）は第1図の範囲を示す）。

北西太平洋（日付変更線以西かつ赤道以北）において、海面気圧が1040hPa以上になったのは、2017年11月16日以来、5年ぶりであった。同モデルによる850hPa面の温度分布（図略）では、この高気圧近傍に沈降性逆転層の形成が反映された高温域が広範囲に表現されており、勢力の強い高気圧がオープンセルの発生に寄与している状況が伺える。

（気象庁大気海洋部予報課 木下 仁）